



ARTIST NO KOSODATE? / Interview / No.10

ARTIST
NO
KOSODATE?

アーティスト
の
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 40代

03 性別 男性

04 子どもの数 2人

05 子どもの年齢 13歳、10歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

自営業でアートディレクターやコミュニケーションデザイナーをしています。料理家の妻と、食とデザインをテーマにしたユニットを組んで仕事をしています。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？
または過去に利用しましたか？ はい いいえ

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

 保育園 < 通常保育 一時保育・ 認可 認可外 > 幼稚園 ファミリーサポートセンター
 その他

保育園には行かせていません。子ども2人とも、3歳から3年間幼稚園に通いました。極力自分たちの手元で子育てをしようというのが夫婦の方針で、仕事のケータリングの現場にだっこ紐をして連れて行ったこともあります。

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

 保育園や学校に行っている間 睡眠時間を削る 子どもが寝てから 早朝 実家・親に預ける
 配偶者に預ける 仕事の合間 仕事が休みの日 捻出できない その他

子どもが家にいるから仕事が進まないという状況になったら嫌だなと思って、本で早起きを推奨しているのを読み、実践しています。夜9～10時に寝て、家族のなかで一番早く朝4時に起き、6～7時まで集中して仕事をするというスタイルが僕には合っていました。夜は疲れているし、ああでもないこうでもないとかよくよ考えがちなのですが、朝はプラス思考になれるので好きです。家族の時間と住み分けをすることで仕事の効率も質もアップしています。

ただ、一人にならないと考えられない場合と、子どもがいた方が助かる場合があります。後者では、例えば子どもにイラストを見せて「これ何描いているかわかる？」と聞き、反応を確かめて、伝わりやすいプレゼンを模索するのに力を借りることもあります。

**10 一日のうちで、①育児にかかる時間、②作家活動にかかる時間、③作家活動以外の仕事にかかる時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？
およその時間を教えてください。**

- ① 育児：0時間 → 2時間
- ② 作家：0時間 → 3時間
- ③ 仕事：10時間 → 7時間

育児にかかる時間は妻9対僕1くらいです。でも、コミュニケーションはよくとっている方で、子どもたちは自分の部屋がまだないので、自然とリビングに集まってきて、学校のことや部活のことなどよく話をします。作家活動は、子どもができてから色々な人とつながりができて本格的にやるようになりました。

11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？

子どもが生まれたから仕事や制作の場所を変えたということは特にありません。ただ、家と仕事場を分けたいと考えて、5年前に自宅から自転車で5分ほどの距離に店を出して以来、仕事はそこですることが多いです。早朝、考え事をするときは家でやっています。

12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

子どもが生まれてから、表現が柔らかくなったり、分かりやすさをより追及するようになりました。例えば、子どもが通う小学校のPTAのTシャツをボランティアでデザインしているんですが、子どもに伝わるのであればみんなに伝わるなど考えることは結構あります。

大人の社会って、どうしても大人ぶって、カッコつけちゃうことが多いですよね。大人を演じている大人が多いと言うか。仕事を依頼される時に、「ちょっとそこにブース出して、ツンとした大人の雰囲気をかき混ぜてもらいたい」って言われることがあるんです。そこで僕が駅長の格好をしてブースの前で立ってみたり、イチゴの帽子をかぶって似顔絵を描いてみたり、コスプレとの間のギリギリのラインにあるようなことをしています(笑)。でも、まじめな話、そういう雰囲気づくりが日本ではやっぱり大事だと思います。

国会中継なんか見ても、誰があれを面白いと思って見るのだろうと疑問です。日本の特に政治の場には、見せることへの配慮の欠如が顕著ですね。今年のG7サミットはドイツで開催されましたが、ロゴもおしゃれだし、代表者が演説する場所の場の作り方(統一されたテーマカラー、国旗の掲揚の仕方)もセンスがよくて、子どもたちもニュースを見てそこに反応するんです。「G7のあれ、めっちゃくちゃかっこよくない!？」って。中国もデザインの力を理解して発信していますね。でも日本の公共の場には、よくデザインされたものは少ないので、その差を埋めたいなと強く思います。

僕はスポーツ観戦が好きなのですが、何を見ているかということ、会場の作り方です。全仏オープンでは赤土のコートがよく見えるように客席には深い緑色を使い、ペリエやバリバのシンプルな白抜きのロゴを配しているし、全英オープンでは気品を重んじて選手は必ず白いユニフォームを身につけなければいけません。プレーがよく見えるように考えられているからこそ世界大会ですね。それと比較して日本のフィギュアスケートは、スポンサーのけばけばしいロゴしか目に入ってこない。何をさせたいのか、本質のとらえ方の違いが如実にありますね。自分が携わっているPTAや大学の教育現場では、センスやデザインの考え方をきちんともった子どもたちを育てたいなと思っています。それは日本の喫緊の課題でもあるわけだから、その育成には国などの公的な支援があるといいですね。

13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

家庭生活に関しては、コロナ禍になって家族との距離感にストレスを感じている人が増えているという報道がありました。僕の場合は今まで通りなのでストレスは全然なかったです。

ただ、仕事に関しては大打撃でした。コロナ禍になる前は、主に都内で何百人規模の食事の提供もしていたのですが、コロナ禍により主軸にしていたケータリングやイベントが全滅して、仕事量が半減したこともあります。それで地元で何ができるかということを中心に考えました。そして、自分の店を食堂やカフェとして使って、どうビジネスにしていけるかということを実践していきました。会社勤めではなく自営業なので、自分の力が頼りです。2020年の春に学校が何週間か休みになった時は、学校に行けない子どもたちのために、オンライン上で作品を展示・鑑賞する企画を立てました。かつてPTA会長をしていたこともあり、困っている学校を何とか手助けできないかという気持ちもありました。自分の中ではとてもいい企画だったと思っています。色んな人を巻き込んで、審査員を引き受けてもらったりして、みんなの持ち出しで運営しています。

14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

自分たちは夫婦であり仕事のパートナーでもあるので自由が利くところがあって、役割分担をしています。基本的に、打合せや現場に行くのは主に自分の仕事で、裏方を自認する妻は家で子どもと一緒にいるかたちです。でも振り返ると、合同展示会や地方のイベントには、それが子どもの教育にもなるんじゃないかと考えてよく子連れで行きました。現場には面白いディレクターの方とかクリエイターの方がいますからね。子どもたちも人が好きな性格なので楽しんでいて、そのうち「あれ、今日はお子さん来てないの?」と言われるぐらい子ども同伴が自然になっていました。

ある雑貨ブランドから、子どもたち向けのクリスマスのワークショップを企画してほしいと言われて関わったことがあるのですが、その時もワークショップ当日に幼い息子を連れて行きました。幼稚園児だったか小学校に入りたてだったかくらいの年齢だったと思います。広い会場に大勢の人がいて、いくつかの人の輪ができていました。息子はまだ幼いので、ランチの時間には父ちゃんと一緒に食べると言ってこっちに来るかなと思いましたが、クライアントのチームの輪の中ですごく楽しそうに食べていました。その姿を見て、スタッフとしていい働きをしているなと思ったし、親として子どもの巣立ちを感じましたね。息子だけでなく娘も人見知りしないタイプです。また、雑誌などの取材を受けることも多く、子育てしながら活動している夫婦ユニットというイメージが定着してきたかなと思います。取材を受けたりしてメディアに露出することは全く厭いません。自分たちが日常生活で自然にやっていることを面白がってくれるのであれば嬉しいし、そこからまた新たなご縁が繋がることもあります。

妻があるお菓子メーカーのレシピ開発を依頼された時、カメラマンと息子がとても仲良くなったんですね。そうしたら後日息子に、老舗デパートのランドセルのモデルをやってくれないかとオファーがありました。親よりもいい仕事を取ってきたなと感心しました（笑）。

子どもの存在は、僕にとっては仕事にもイメージ作りにもプラスになっているので、言葉は悪いかもしれませんが、最大限活かすつもりです。

15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいますか？

アート関係のパパ友やママ友はたくさんいるので、相談しようと思えばいるという感じです。

16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。

リサーチ 制作 展示 ワークショップ アーティスト・イン・レジデンス その他

制作・展示・ワークショップはすでにやっていますが、リサーチとアーティスト・イン・レジデンスは経験がないのでやってみたいです。一定期間集中してある地域に滞在して現地の人と交流し、郷土の文化にもふれて、自

分に何ができるだろうとか、その人たちと組んで何かできないかなと考えるのは興味があります。

よく伝統産業や農業の担い手がないということを聞きますが、先日ニュースで、アプリを作って農業をしたい若者を募りマッチングさせているということを知りました。面白いですね。アーティストと一緒に地方に行って、一過性ではなく、定着するようなスモールビジネスを考えるということもしてみたいですね。アーティスト・イン・レジデンスではなく、ディレクター・イン・レジデンスもいいかもしれません。今は葉山に住んでいますが、たまに狭さも感じるので、時々は外に出ないといけないなと思っています。

「その他」としては、授業などでデザインについて伝えていく仕事をしています。

17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？
特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。

家族の協力 ひとりの時間 収入 美術に関する仕事への就労 仲間存在 その他

18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、
子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。

大人と子どもの境界を設けない企画やプロジェクトがあったらいいですね。先日、サーフィンの体験イベントに子どもと参加したんですが、僕も子どもも初心者だったこともあり、同じように楽しめました。上達はむしろ子どもの方が早い。美術館などでは大人向け、子ども向けなどと対象年齢を絞ったワークショップをやることも多いと思いますが、一緒に楽しめるようなやり方ができたらいいですね。

19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？

だいぶん先のことになるので、今はちょっと想像できません。



ARTIST
NO
KOSODATE?

アーティスト
の
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 30代

03 性別 女性

04 子どもの数 2人

05 子どもの年齢 5歳、1歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

結婚後しばらくまで絵画教室の講師をしていましたが、今は何もしていません。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？
または過去に利用しましたか？
 はい いいえ

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

 保育園 通常保育 一時保育・ 認可 認可外 幼稚園 ファミリーサポートセンター
 その他

下の子は最近、保育園の一時保育に預け始めました。今住んでいる市には、割安な1時間300円で利用できる一時保育のサービスがあって、助かっています。理由を問わず利用でき、親のリフレッシュのためでも大丈夫です。利用できる保育園は、認可・認可外両方とも何か所かあります。今は、保育園に慣れさせるために一日2時間程度預けていますが、ゆくゆくは自分の制作時間を捻出するために、もう少し定期的に預けたいと思っています。ただ、この一時保育は人気があって、予約が月に1、2回しか取れない状態です。どの保育園を希望するのにもよるのですが、自宅から近いところでないとなら送迎が大変なので、実際の預け先は限られます。とはいえ、利用できるのが月に1、2回だったとしても、1日8時間程度預けられるようになったら多少自分の時間が取れるかなと思っています。

制作したいという気持ちは常にあって、描いている方が自分の気持ちも安定するのは分かっているのですが、今それを始めると家事が滞って絶対どこかにしわ寄せがくるので、なかなかできていません。

下のお子さんを次の4月に保育園に入れようとお考えですか？

いいえ。入れられるものなら入れたいのですが、今住んでいるところは激戦区で、選考のための項目を見ただけでも全然加点がなくて入れそうにありません。夫婦ともに自営業で、両親が近くに住んでいるとなると、とても無理だろうなという感じです。

最近、上の子が通っている幼稚園に、年少のひとつ下の2歳児クラスができました。親が送り迎えすれば週に何回か預けられるので、そこに入れたいと考えています。上の子が通っているので、希望すれば選考なしで入れるはずで、満3歳になったら自動的に年少クラスと同じように週5日、無償化対象で通えます。

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

- 保育園や学校に行っている間
 睡眠時間を削る
 子どもが寝てから
 早朝
 実家・親に預ける
 配偶者に預ける
 仕事の合間
 仕事が休みの日
 捻出できない
 その他

10 一日のうちで、①育児にかかる時間、②作家活動にかかる時間、③作家活動以外の仕事にかかる時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？
おおよその時間を教えてください。

- ① 育児：0時間 → 12時間
 ② 作家：3時間 → 0時間
 ③ 仕事：9時間 → 0時間

11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？

場所は変わらず自宅です。ただ、子どもが産まれてからは子どものスペースが必要になったので、制作場所は狭くなりました。

12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

作風には特に影響していませんが、短時間で集中して描かないといけないので、集中力がつきました。今は、細切れの時間を使ってなんとかやっていますが、最低でも1時間はないと、絵の具を出して片付けるまではできません。あらかじめこの時間内で制作するというのを決めて、その間夫に子どもを公園に連れて行ってもらうなどして時間を確保しています。

画材の使い方も少し変わってきて、もともとチューブ式の絵具やインク式の絵具をパレットに出して筆で描くということをやっていたのですが、短時間で描く必要性から、パレットを使わず、インク式の絵具を直接綿布の上に出して、綿布の上で混色して使うようになりました。

それから、20号以下の小さい作品を多く描くようになりましたね。気持ちとしては、もう少し大きい作品を描きたいのですが、一層描くだけでも時間がかかるし、制作スペースも確保しづらくなりました。

13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

制作そのものには影響していませんが、コロナが流行って幼稚園が休園になると、子どもが家にいる時間が長くなるので、その分制作時間が削られてしまっている実感はあります。休園のかたちも様々で、何日間か完全に休園になったり、保育時間が短縮されて午前みの保育になったり、夏季保育がなくなったり、色々ありました。

14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

先ほど言ったように画材の使い方を工夫している他は、上の子がいる時は一緒に絵を描こうと誘っています。普段アクリル絵具は触らせていないので憧れがあって、使わせてあげると喜んで描いています。長時間はもちませんが、20分くらいなら何とか遊んでいてくれるので、その間に自分の作業をしたりします。

15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいいますか？

コロナ禍で人と会うことが難しいので、友人に連絡を取ることが少なくなっていますが、夫がアーティストなので時々相談しています。

それから、同じくらいの年の子どもをもっていて、今はアーティスト活動をお休みしている大学時代の友人たちとは連絡を取り合っています。友人たちも、いずれまたアーティスト活動を再開したいと言っていますが、やっ

ぱり、働いていて保育園に子どもを預けている友人は制作する時間がないし、働いていないで幼稚園に預けている友人はそれはそれで時間がとれなくて制作できないようです。子どもが小学校に行くようになればちょっと手が離れて再開できるようですけれど。

16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。

リサーチ 制作 展示 ワークショップ アーティスト・イン・レジデンス その他

展示が決まったら、それに向けてスケジュールを組み立てて制作していくという風にしたいので、展示するという目標があったほうがいいですね。具体的な目標がないと日々の生活に追われがちですが、展示が決まれば多少無理してでも時間を捻出できるかなという気がします。

実際に昨年、ギャラリーで個展を開催しました。先方からお声がけいただいて会期が決まり、その後第2子の妊娠が分かって、出産後2カ月というタイミングでの展示だったのですが、準備はギリギリでした。産後すぐは制作できる状態ではなくなるというのは分かっていたので、お腹にいる間に仕上げたいと思っていたのですが、つわりがひどく、制作に取り掛かれる状態ではありませんでした。体調が悪く記憶もあまりありません。臨月近くなりお腹が大きくなってからようやく描き出しました。最後は夫と上の子に数日間帰省してもらって時間を作り、集中して作品を仕上げました。振り返ってみれば、展覧会があったから描けたなと思います。なかったら絶対に描いていません。そして、今は2人の子どもを抱えています、展示の機会があったらやはり挑戦したいです。

ワークショップは、先日、近所の子どもたちを対象に実施したばかりです。楽しいですし、今の私だから伝えられることもあるのかなと思います。絵画教室の講師を再開するとなると現在の状況では色々大変なのですが、単発のワークショップはまたぜひやりたいですね。

それから、アーティスト・イン・レジデンスにも興味あります。子どもがいたら行きにくいだろうなと思い、子どもができる前に結構応募したんですが、通らなかったんです。今の状況で行くとしたら、家族で受け入れてもらえるところを探す必要がありそうです。今夫に二人の子どもを預けて一人で滞在先に行くのは到底無理ですから。

17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？ 特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。

家族の協力 ひとりの時間 収入 美術に関する仕事への就労 仲間存在 その他

夫は我が家の収入の柱になっていて、時間があればあるだけ制作したいと思っているので、家事や育児を全面的に担ってもらうのは難しい状況です。夫もいろいろとやってはくれますが、細かいことはどうしても私がやることとなります。私と夫だと負担の割合は8対2くらいかな。それで、私の不満がたまって爆発することもあります、私が今制作をしても直接収入につなげるわけではないので、しょうがないのかなと思います。

18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、 子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。

最近、子どもができた年代のアーティストが増えていて、その人たちの話は聞くのですが、ちょっと上の世代の話は私はあんまり聞いたことがないんですね。だから、上の世代のアーティストで、子育てと制作を両立している方々の話が聞けたら嬉しいです。実際にどういう風に乗切ったんだろうと参考になります。

あと、地域によって違うとは思いますが、保育園の入れ方なんかも知りたいです。上の子がもう少し小さかった時、周りでは保育園の話をしていたんですが、うちは預けられない。似たような境遇にあるアーティストはどうしているんだろうって思いながら、特に聞けずにいました。

それから、他のアーティストの子どもにぜひ会ってみたいです。うちの子はとても変わっているんですが(笑)、

コロナ禍で人となかなか会えないので、そういう機会があったらおもしろそうだなと思います。

お子さんが小さいうちはなかなか外出しづらいですよね。

はい。子どもが少し大きくなってきたり、コロナ禍が落ち着いてきたりで、以前よりは子連れで外出もできるようになってきましたが、ギャラリーに出かける機会は減っています。ベビーカーで入るには入り口が狭かったり、中に入っても限られたスペースだと邪魔になっちゃいそうだなと思ったり、子どもが作品を触りそうで怖かったりで、よほど勝手がわかっていて、大丈夫そうというのが分かるところ以外は遠慮してしまいます。その点、設備の整った美術館であれば、まあ行けるかなと思えるようになってきました。

19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？

まだそんなに先まで見通せませんが、常に制作をするというのが普通のペースを取り戻していきたいですね。展示は後からついてくるものだと思うので、まずは制作ができるようになりたいです。



ARTIST NO KOSODATE? / Interview / No.12

ARTIST
NO
KOSODATE?

アーティスト
の
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 50代

03 性別 女性

04 子どもの数 1人

05 子どもの年齢 11歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

自営業のイラストレーターおよびデザイナーとして、自宅で、企業に依頼されたイラストを描いたり、企業のパンフレットを作ったり、ロゴマークを作ったりしています。そのほか、出産前から子どもが小学2年生になる頃まで、専門学校や大学で講師としてデザインを教えていました。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？
または過去に利用しましたか？ はい いいえ

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

 保育園 通常保育 一時保育 認可 認可外 幼稚園 ファミリーサポートセンター
 その他

夫は外で働いていて、私は産後3カ月から仕事を再開しました。子どもが1歳になってから、週に2回程度保育園の一時保育を利用し、慣れてきてからは9～17時の間預かってもらっていました。

子どもが2歳の時に今住んでいる町に引っ越し、保育園に通わせたいと思って役場に聞きに行ったら、親が在宅で仕事をしている場合は通常保育で入園させるのは難しいかもしれないですねと言われ困りましたが、当時同居していた祖母に面倒を見てもらったりもして、何とか乗り切りました。

3歳からは幼稚園に通い、週に何回かは延長保育を利用して18時まで預かってもらいました。

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

 保育園や学校に行っている間 睡眠時間を削る 子どもが寝てから 早朝 実家・親に預ける
 配偶者に預ける 仕事の合間 仕事が休みの日 捻出できない その他

あまり寝ない子で、やっと寝たと思って抱っこ紐から降ろすと必ず泣き出すので、もうあきらめて常に抱っこひもを装着して制作していました。あとは車の中なら寝たので、制作に集中したい時は、夫に子どもをドライブに連れて行ってもらうと、その間に作業したこともあります。

人見知りな子なので、なかなか家族以外に預かってもらうとか、迎えに行ってもらおうということはできませんでした。

10 一日のうちで、①育児にかかる時間、②作家活動にかかる時間、③作家活動以外の仕事にかかる時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？
およその時間を教えてください。

① 育児：0時間 → 2時間

② 作家：1時間 → 6時間

③ 仕事：8時間 → 5時間

子どもがもうだいぶ大きくなってきたので育児にかかる時間は少なくなりましたが、夜寝る前に本を読んであげたり、習い事の送迎をしたりしています。

何を作家活動とし、何を仕事とするかは切り分けが難しいところもありますね。

11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？

場所は変わらず自宅です。

12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

すごく変わりました。それまでは、これ面白いからやってみようという理由で作品を制作していましたが、子どもが生まれてからは、使命感のようなものが制作動機になっています。

私は妊娠中から子どもが7歳になるまで、毎日1枚、絵日記を描き続けたのですが、きっかけは、自分の子どもを見ているのは自分だけなので、私が残さないと、と思ったことでした。そういう使命感を抱いたのは初めてで、それは私にとってとても大きな変化でした。

絵日記を毎日 SNS 等に投稿したり、何回か展示したりすると、子育て中の人も含めていろんな人たちがそれを見てコメントをくれて、だんだんと私一人ではなくみんな一緒に生きているんだという感覚が生まれてきました。当時は 3.11 があったばかりで、被曝について正しい知識を持って恐れなくてはいけない時代に、どうやって親として、また人として、生きていくかという問題を多くの人が抱えていたので、特に連帯感みたいなものが強くありましたね。

絵日記を展示すると、展覧会を見てくれた人が泣いちゃうことも結構ありました。自分が子どもだった時のことを思い出して泣いたり、育児に奮闘していたことを思い出して泣いたり。私にとって感動的だったのは、若い青年が長い時間をかけて熱心に見ていたので声を掛けて話を聞いたら、彼が小さい頃に母親が失踪しちゃったんだと言うのです。それで、彼はずっと自分の母親のことを理解できなくて、恨みを抱いたり自分を責めたりしていたそうなんです。こうして絵日記を見ると、母親って決して完璧ではなくて、こんなに悩める生き物なんだというのが分かってとてもよかったと言ってくれたんです。そういう反応をもらうと、ああ、この絵日記は自分だけの物じゃないんだなどの思いを強くしました。他にも、感想ノートに綴られたたくさんの言葉は涙なしには読めません。

子どもが6歳くらいの時に絵日記に描かれることを嫌がり始めたので、結局そこで終わりにすることにしましたが、私としては描くことに責任感や使命感も感じていたので、やめていいのか迷いました。

それから、2021年に地元の里山のイラストマップを作ったのですが、これもコロナ禍で子どもたちが公園にも自由に行けない状況をなんとかしたいというところから出発しています。みんなに山では思い切り遊べるよってことを言いたくて作りました。うちの子はインドア派で山は全然好きではないけれど、そういう子どもも行きたくなるような宝の地図みたいな感じにしました。子どもを抱えて家に閉じこもっていなきゃいけない人たちのヒントになればという気持ちでした。

振り返ってみれば、もし子どもがいなかったら自分は何をやっただろうと思うくらい、子どもに関わるものを制作しています。子どものいる日常のなかで気づいたことや、これがあつたら自分だけでなく他の人も助かるか

もしれないというものを形にしています。子どもがいなければ、コロナ禍もただ、ああ大変だなでスルー出来たと思うのですが、もし自分が子どもだったらとか、もし自分が小さい子の親だったらとか、色々考えるようになりました。

13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

それまでは、意識が外へ外へと向いていて、地元よりも東京で出展したいとか、旅行に行きたい、外国を見たいという感じだったのですが、コロナを経て、横に広がるよりも地域を深く知りたいと思うようになりました。それまでは全然興味がなかった地元の歴史を掘り起こして、マップ作りにつながりました。

14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

子どもは3歳半まで母乳を飲んでいたので、授乳しながらパソコンに向かって仕事をすることもありました。それから、子どもが2歳の時に今の家に引っ越したのですが、その時に壁面にすごく長い作り付けの仕事机を設置してもらいました。そこで私が制作や仕事をしている隣で、子どもが絵を描いたり宿題をしたりしています。ちょっと話はそれますが、うちの子は小学校に上がって間もなく学校に行くのを嫌がって、学童保育もすぐに行かなくなりました。そこで1年生から2年生の夏休みまで、毎日登下校に付き添いました。それでもたまにドアや手すりにしがみついて登校を拒否したり、朝パジャマを着替えると学校に連れていかれると思って、わざと着替えなかったりしました。私も仕事があるし、ここで許すとそのまま学校に行かなくなっちゃうんじゃないかという怖さがあるって、引っ張ったり引きずったりして連れて行きました。服をもってパジャマ姿の子どもを自転車の後ろに乗せ、スピードを出して学校までの坂道を下ったこともあります。さすがに子どもはその状態になったら諦めがつくようで、無理に降りることはしませんでした。今思うと本当に危険ですが、毎朝私も子どもも死に物狂いでした。結局、2年生になって、近所に引っ越してきた年の近い子と友達になったことがきっかけで、学校に行くようになりました。

学校に行きたがらない理由は何だったのでしょうか？

隣の教室から聞こえてくる先生の怒鳴り声怖かったり、下駄箱で体の大きい高学年の子と一緒にするのが怖かったり、あと、先生に「よしよし偉いね」って頭をポンポンされるのが嫌だったり…(笑)。それから、想定してないことが起きるのが苦手だったり、何かを指示されたり教わったりするのが苦手なので、そもそも学校に向いてないのかもしれないね。

この前、ある男の子が悪いことをしたんだよ、と子どもが言うので、「ダメだよって言わなかったの?」と聞いたら、「2年生くらいの時にそういうこと言ってみんなに嫌われたから、もう言わないんだ」って答えたんですね。そんなことがあったというのは初耳だったので驚きました。当時も何かそういうことがあって、学校が辛い場所になっていたのかもしれない。その時打ち明けてくれなかったのは、相当ショックなことだったからなのかな、と想像してみたりします。

小さい子どもは感じたことを全部親に伝えると思いがちですが、その時は自分の複雑な感情をうまく言葉に表現できなくて泣いたり怒ったりして、時間が経って言葉で表現できる歳になってから尋ねると話してくれるということがありますね。

この前も、幼稚園の時のビデオを見て、なんでこの時怒ったのかを話してくれて、そうだったんだ!と驚いたことがありました。

学校に行くのが嫌な理由が本当は何だったのか、私がちゃんと理解できていないのに無理やり連れて行ったことが正解だったかどうかは分かりません。学校であったことを楽しそうに話す姿を見ると、学校に行けてよかったと思うし、お友達に対して強引なことをしている姿を見ると、あの時私が強引に連れて行ったことが原因かもと今だに思ったりします。こうやって、一生ああでもないこうでもないと考え続けるんでしょうね、きっと。

15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいますか？

私は高齢出産で、周りに子どもの年齢に近い人がいなかったため、あんまり相談しなかったです。ただ、絵日記を公開していたので、悩みを描くと、それに対して、同じくらいの年頃の子をもつ人や、かつて子育てをした人、子どもの気持ちをもっている大人などが色んな反応をしてくれて、それがとても励みになったり、安心したり、奮起したりと、大きな力になりました。

16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。

リサーチ 制作 展示 ワークショップ アーティスト・イン・レジデンス その他

今現在、やっていることですね。

**17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？
特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。**

家族の協力 ひとりの時間 収入 美術に関する仕事への就労 仲間の存在 その他

時間はもっと欲しいですね。それと、今力を入れている活動は自分一人ではなく仲間と一緒に進めているので、仲間の存在が大切です。

**18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、
子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。**

特に FAS がというわけではありませんが、一般的に美術館は小さい子には敷居が高いですね。私自身、子どもが小さい時は美術館などに出かける機会は減りました。子ども向けの展覧会には出かけて行ったりもしましたが、なんで触っちゃいけないのかな、なんでしゃべっちゃいけないのかなと思うことがありました。子ども向けと銘打っていないながら、子ども仕様にし切れていないケースもあるので、改善されるといいですね。

それから、小さな子どもをもつ親はなかなか自分の時間がもてません。だから、そういう人を対象にした、創作をしたり知識を深めたりするワークショップは貴重だと思います。乳幼児も同伴可能なイベントを開催する場合、椅子席でなく、靴を脱いで床に座るような席があるといいかもしれません。マットを敷いておけば、子どもをあやしながら参加できます。

以前開催した絵日記展では、通常通りに壁面展示をした他、ショッピングモールなどにあるキッズコーナーのようなスペースを設けて、そこにモニターを置き、作品をスライドショーにして流しました。小さな赤ちゃんと一緒に直に床に座って鑑賞できるように、モニターの前にはふかふかのラグを敷き、クッションや積み木、絵本も置きました。キッズコーナーって隅っこに設置しがちですが、この時は会場のメインの場所にバーンと作りました(笑)。小さい子ども連れでも大歓迎だということを伝えたかったんです。

当初は来てくれる人のためにと思って作ったスペースでしたが、当時幼稚園児だった自分の子どもを連れて行ったら飽きずにそこにいてくれて、お客さんの連れてきた赤ちゃんの面倒を張り切ってみたりと、嬉しい誤算もありました。私も子育て中だったので、結局は鑑賞者だけでなく、作家本人にとっても居心地のよいスペースになりました。

子育て中の作家は、自分が鑑賞者として不自由した経験がある分、子育て中の人に参加しやすいアート活動ができると思うんです。その視点から展覧会を行うなら、会場の設営は今までにない形になるかもしれません。その受け皿として、臨機応変に対応してくれる場として FAS があつたらとてもいいと思います。作家にとっても鑑賞者にとっても社会にとっても。

19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？

これまで通り、地元の特化したことをやっていきたいと思っています。10年後も今とあまり変わらないかなと思いますが、もしかしたら全然違うことをやっているかもしれませんね。

子どもはもう、どこにでも一緒に付いて行きたいという感じではないので、第一次子育ては一段落したと感じています。子どものために自分の行動が制約されるということがあまりなくなりました。ただ、基本的には子どもが学校に行っている間と夜に仕事をして、イベントなどで土日や遅い時間に外出する際は前もって色々準備し、何か買ってあげたりして機嫌を取ってから出かけます。

去年スイッチというゲームを買ってあげてからはもっと自由になりました。YouTubeも夢中になって見始め、急に手が離れました。私はゲームとかが好きじゃないので、非常に複雑ですけど。今なら、お昼ご飯を夫が作れば、私が昼前から17時頃まで出かけても平気だと思います。それまでも一人遊びはしていましたが、そんなに長くは続かなかったんですね。だから、土日に展示の準備で出かけるから、家で待っててとお願いするのは難しかったです。つい2年くらい前、小学校3年生くらいまでは、土日に搬入がある場合は、手伝ってもらうという名目で子どもを連れて行っていました。それに比べると、だいぶん手が離れたなと思います。子どもに手伝ってもらうの、私は楽しかったんですけどね。